時代と共に変わる産地「信楽」

Change with the Times of Origin Shigaraki
Key-words：Shigaraki, Pottery making, Industry

加藤　駿介
Shunsuke KATO

1. はじめに

筆者は130年余り前から製陶，販売を信楽の地で行なってきた家系として生まれ育った．父方母方，それぞれが別々の製陶所の家系であり，信楽の「産地」としての変容も幼心から聞き，体験できる立場にあった．今回は信楽という「やきもの」の産地が現在にいたるまでどのように発展し変化を遂げてきたのかをお伝えしたいと思う．

2. 産地とは

どの分野でも産地として成立してきた背景にはその土地の重要性がある．信楽の場合は古琵琶湖層から出土する良質な「粘土」，焼成に必要な燃料としての「松」，京都，奈良，堺という中世における「消費地との距離の近さ」，近世における等，やきものを作って販売するには良い環境（図1）が揃っていた．

3.「産業」としての信楽焼

信楽の土（図2）は昔から大物に適した土だと言われる．

中世は壷，甕，鉢，近世は茶壺，近代は糸取り鍋，火鉢，耐酸陶器，現代は植木鉢，傘立，建築用タイル等を中心に生産してきた．人々の生活様式が変化するにつれて作るものも変化させていく（図3）．

当時の様子について河井寛次郎は「火鉢，水瓶，手水鉢，紅鉢，植木鉢，便器，湯たんぽ，茶壺．ここで出来た茶壺は嘗ては全国の葉茶屋の店先を飾っていた．青い茶の簾薬や白や青の大きな壺がそれである．これは信楽の名誉ある勲章であったが近年全く作られなくなった．大巾の見事な便器も作られなくなった．可憐な湯たんぽも作られなくなった．茶壺の代わりに火鉢を今作っている．…支那海鼠まがいの寒い火鉢である．これも…ぼつぼつ模様物に替わろうとしている．」[1] と信楽の陶工たちの変化の早さに批判をしたが，見方を変えるとそれほど柔軟にものづくりを行なってきた場所といえるのではないか．そこには「芸術」としてのやきもののあり方よりも，人々の暮らしを便利にしたいといった「産業」としての側面が強かったのかもしれない．ただ，信楽の場合は近代化以降，ファインセラミックスやニューセラミックスの分野には発展しなかった．そのことについては中世時代から続く茶陶や火鉢や植木鉢等の住空間を彩るものを作ってきた「芸術」としてのあり方も同時に存在していたという事があるのではないかと思う．

図1　谷に続く，信楽の町並み

図2　原料採掘跡

図3　信楽焼の特徴的な装飾技法の青簾（あおすだれ）が施された，巨大な焼酎瓶

© 日本セラミックス協会

4. 現在とこれからの信楽

産業としての信楽焼は1993年をピークに生産高，陶業従事者ともに年々大幅に減少傾向にある．理由としては高齢化，景況の悪化，海外製品の台頭，新素材の出現，需要と供給のミスマッチ等，その他の工芸産地と同様に状況は決して良くはない．この事は産地の基盤となる原料や設備にも大きな影響を与えている[2]．

このままいけば近い将来，信楽というやきものの産地は消滅してしまうかも知れない．先人たちは社会の変化に柔軟に対応してきた．それに習い私たちも常に変化しつづける必要がある．あらゆる便利な素材が存在し，機能的なものが溢れる現代において，変化のヒントになるのが信楽焼のもう一つの側面である「芸術」だと思う．筆者らもスタジオにギャラリーショップを併設しており，その内容は陶器だけではなく，木工，ガラス，絵画，デザイン，音楽，インテリア，古道具，アパレル等，時代や場所にこだわらず美しいと思うものを取り扱っている（図4）．

「機能性」とは違い，「美しさ」といった価値観は人により異なり定義づけるものが難しいものだ．その空気のような感覚を伝え，次世代に向けて「美しさ」を提案することが，筆者の役目だと思い製作に励んでいる．今までは陶器を中心とした「産地」であったが，これからは陶器を含むさまざまな「芸術産地」として変化し発展していけるようになる必要があるのではないかと思っている．

図4　ギャラリーショップ店内

文　献

1）河井寛次郎，“近江の信楽，火の誓い”，朝日新聞社（1953）．
2）甲賀市史編さん委員会，“甲賀市史”第5巻　信楽焼・考古・美術工芸，甲賀市（2013）．

筆者紹介

加藤　駿介（かとう　しゅんすけ）

1984年滋賀県信楽町生まれ．京都精華大学在学中にIDEE experienceにてアルバイト勤務後，ロンドンにデザインを学ぶために留学．帰国後は映像制作，グラフィックデザインを現在のパートナーと開始．東京の広告制作会社に勤務後，地元である信楽に戻り，家業である「ヤマタツ陶業」にて陶器のデザイン，制作に従事．2015年，独立して，陶器を軸にしたライフスタイル全般のデザイン，制作販売業務を行なう「NOTA& design」を設立．2017年7月，信楽の工芸作家の作品，骨董品等を取り扱う「NOTA_SHOP」を工房敷地内にオープン．

［連絡先］〒529-1851　滋賀県甲賀市信楽町長野495-2

E-mail：shunsuke@nota-and.com